

事務事業名 各種事業・教室開催事業

出力日：令和04年03月15日

キーコード：714

施策：	22	スポーツ・レクリエーションの推進	財務コード	01090701-03-00
基本事業：	02	年齢や体力に応じたスポーツの振興	担当部	教育部
基本事業の成果指標	スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（18歳以上65歳未満） スポーツをする機会が充分だと思ふ市民の割合（65歳以上） 学校の体育以外で、スポーツをしている児童・生徒の割合 親子でスポーツをしている市民の割合		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	スポーツ振興担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和40年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			広報や市公式ホームページ、ポスターなどで参加者を募集し各行事を開催 [行事内容] いきいきニューススポーツ広場（6月）：スポーツ推進委員主催によるニューススポーツの紹介・体験と体力測定を開催。 福祉レクリエーション講習会（5月）：レクリエーションの提供の仕方、楽しさを学ぶ学習会を生涯学習センターで4回開催。 生涯スポーツセミナー（6月）：生涯にわたって、スポーツを楽しむための講習会を開催。 筑紫野市民水泳大会（7月）：小学生から大人まで水泳に親しむ大会。 スポレクフェスタ（11月）：農業者トレーニングセンターや筑紫運動広場で、各種スポーツの体験イベント、ベタンク大会も開催 筑紫野市駅伝大会（1月）：7区間をチーム単位で競う大会 ちくしのウォーキンググランプリ（3月）：コロナ禍における「健康二次被害」を防ぐため、県が配信するふくおか健康ポイントアプリを活用し						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			さまざまな人々がふれあい、交流を深め、気軽に「する」「みる」「つどい」「つなぐ」ことが出来るようなスポーツ活動の場を提供する。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	01年度実績	02年度実績	03年度当初	04年度要求	05年度計画	06年度計画	目標
各種事業、教室の参加者数		人	7,272	307	7,000	7,000			7,000
5. コスト									
事業費		計	千円	1,600	697	1,669	1,618		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円		0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他	千円		0	0	0		
一般	千円	1,600	697	1,669	1,618				
正職員人工数		人工	0.3	0.4	0.4				
正職員人件費		千円	2,420	3,212	3,168				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,020	3,909	4,837	1,618			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている  どちらかといえばあがっている  あがっていない（停滞・低下）		・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、各種事業・教室開催事業が中止となった。 ・コロナ禍における「健康二次被害」を防ぐため、県が配信する「ふくおか健康ポイントアプリ」を活用し、だれでも手軽に参加できる「ちくしのウォーキンググランプリ」を新たに開催した。 コロナ禍で多くのスポーツイベントが中止となった							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性		維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
既存のスポーツは、スポーツ本来の楽しさを感じる技術に達するまで時間を要し、体力も必要となる種目が多い。こうしたことから、世代を問わずだれもが気軽に楽しめるスポーツの普及を地域に広める必要がある。			令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大による、国の「緊急事態宣言」発出等から各種事業・教室開催事業が中止となり、成果指標である各参加者数の減となった。						